令和7年度 決算を認定

9月16日に令和7年度決算審査特別委員会を設置し、10月1日から10月14日まで各会計の決算議案を詳細に審査した後、10月15日の本会議で原案どおり認定しました。

決算のポイント

一般会計の歳入は4.3%、歳出は3.8%増加し、令和５年度から３年連続の増となりました。

一般会計の実質収支額は、11億１千万円と50年連続の黒字で、前年度実質収支を控除し、財政基金の積立額と取崩額を加味した実質単年度収支は、６億９千万円と３年連続の黒字となりました。

特別会計（国民健康保険事業や介護保険事業など）は、実質収支額で６会計が黒字、４会計は収支差し引きゼロ、土地区画整理事業清算金の１会計は赤字となったほか、企業会計（水道事業、下水道事業）の２事業のうち、水道事業は21年ぶりの赤字、下水道事業は10年連続の黒字となりました。

基金と市債の状況

市の貯金である財政基金など３基金の現在高は130億円で、９億７千万円の増。

借金である市債の一般会計の現在高は1028億円で、42億円の減。

市財政の健全度

財政破綻を未然に防ぐための「財政健全化法」では、健全度を判断する４つの指標（健全化判断比率）を市民に公表することを義務付けています。

本市の指標は、下表のとおりで、全ての基準を満たしています。

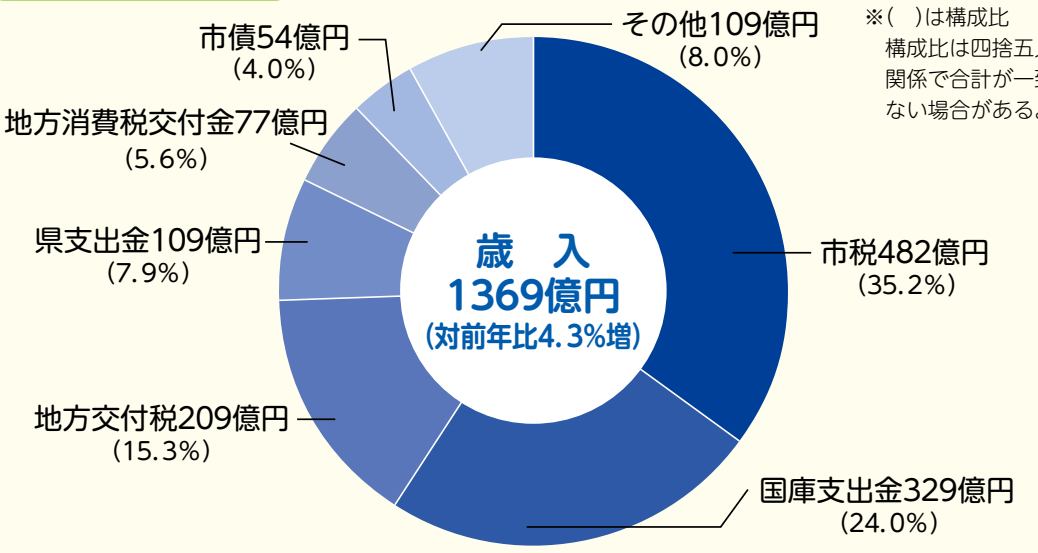
健全化判断比率	本市の令和７年度決算	法で定める早期健全化基準
実質赤字比率（一般会計の年間赤字割合）	−	11.25%
連結実質赤字比率（全ての会計の年間赤字割合）	−	16.25%
実質公債費比率（借金返済の割合）	3.2%	25.0%
将来負担比率（将来負担が見込まれる負債割合）	16.0%	350.0%

※実質赤字比率と連結実質赤字比率は、赤字でないため値なしとして「−」表示

一般会計

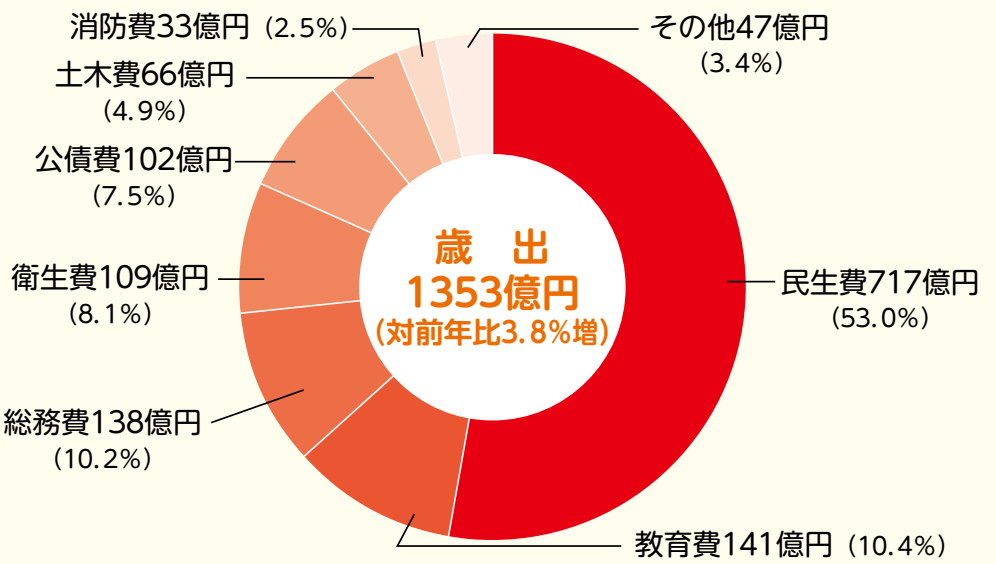
歳入（A）	歳出（B）	形式収支（C＝A－B）	繰越財源（D）	実質収支（C－D）
1368億9413万円	1353億1611万円	15億7802万円	4億6447万円	11億1355万円

※（　）は構成比
構成比は四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。



前年度比で市税は、個人市民税や固定資産税および都市計画税、法人市民税の増加などにより、32億円の増。

国庫支出金は、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金などが減少した一方で、児童手当負担金や物価高対応子育て応援手当支給事業費補助金などの増加などにより、９億円の増。



前年度比で民生費は、価格高騰緊急支援給付金給付事業費が減少した一方で、児童手当支給事業費や物価高対応子育て応援手当支給事業費、訓練等給付事業や障害児通所支援事業などの障害福祉事業費の増加などにより、18億円の増。

教育費は、図書館運営事業費や幼稚園施設整備事業費などが減少した一方で、中学校施設整備事業費や学校給食支援事業費の増加などにより、５億円の増。

市民の声に耳を傾け明石の未来のために

総務 常任委員長に聞く

【担当分野】
市政の総合企画や広報、財政・市税、消防など、総務・財務部門や市民の安全に関わる分野を審査します。



黒田　智子（くろだ　ともこ）

【議会歴】
在職１期。文教厚生常任副委員長、議会運営委員などを歴任。49歳。

―重点的に取り組む事項

本常任委員会は、市政全体の方向性を決定し、市民の皆さまの暮らしを支える分野を担当しています。今年度は、市役所新庁舎の整備、大蔵海岸から明石港東外港地区、明石公園へとつながるまちづくり、大久保駅周辺の活性化などを審査します。防災への備えやデジタル化も市民の暮らしに直結する課題です。人口減少や物価高の中、一つ一つの事業が本当に必要か、将来世代に過大な負担を残さないかをしっかりと確かめ、限られた予算の使い方を丁寧に議論してまいります。

―委員長として一言

市民の皆さまや現場の声に耳を傾け、委員会での議論を分かりやすくお伝えします。市民に開かれた委員会を目指し、明石の未来のために取り組んでまいります。

誰もが安心して暮らせる明石へ

文教厚生 常任委員長に聞く

【担当分野】
教育や福祉、介護保険、子育て支援・子どもの健全育成、保健衛生など、市民の暮らしを支える分野を審査します。



長尾　博子（ながお　ひろこ）

【議会歴】
在職１期。生活文化常任副委員長、議会運営委員などを歴任。62歳。

―重点的に取り組む事項

今年度は全小学校体育館へのエアコン整備を進めるとともに、学校給食の完全無償化や有機食材・地産地消を推進し、子どもたちの健康と食育の充実に取り組みます。また、明石市立市民病院の再整備の検討や、防災では要配慮者の避難支援に向け、個別避難計画やひなんサポーターの養成を進め、避難所環境の充実にも取り組みます。部活動の地域展開では、あかしタイムを創設し、地域と連携しながら子どもたちのスポーツ・文化活動の機会を広げ、健やかな成長を支えてまいります。

―委員長として一言

暮らしに身近な委員会として、市民の皆さまの一つ一つの声を大切に、誰一人取り残さない、安心して暮らせる明石を目指して取り組んでまいります。